

片頭痛患者の疼痛強度と生活の質に関連した心理的要因の検討に関する研究

研究分担者 井関 雅子 順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座 教授

研究要旨

偏頭痛は、女性に好発する疾患であり、疼痛のためのしばしば生活に支障をきたすことが知られている。た、片頭痛が難治化する心理社会的要因として、ストレス、抑うつ・不安、認知の偏り、サポート不足など様々要因が関与することが知られている。本研究では、他の疼痛疾患を合併しない片頭痛患者を抽出し、疼痛強度と心理的要因に関して、後ろ向き調査を行なった。その結果、片頭痛患者の痛みの増強には破局的思考が影響を及ぼしていることが示唆された。

A．研究目的

片頭痛患者の我が国における有病率は、人口の5～10%の840万人とされ、女性に多い。疫学調査によれば、片頭痛患者の74%は、日常生活に弊害をもたらしており、中には、片頭痛のために就労や家事育児が困難となり、著しく生活の質(QOL)が低下することもあり、QOLを向上することが心理的な介入において目標となることが多い。また、片頭痛が難治化する心理社会的要因として、ストレス、抑うつ・不安、認知様式、サポート不足など様々要因が関与することが知られている。そこで、片頭痛が慢性化する心理的要因に関して調査する。

B．研究方法

2016年7月～2017年6月末日の当科初診患者の中で、頭痛と診断された患者39名の中から併存する疼痛部位のない片頭痛のみの患者10名を抽出し、痛みセンター共通問診票から、疼痛強度とQOLとの関連を後ろ向きに調査した。尺度は、疼痛強度(BPI)、疼痛日常生活障害(PDAS)、破局的思考(PCS)、身体疾患の抑うつ・不安(HADS)、健康関連QOL(EQ-5D)、痛み自己効力感(PSEQ)であった。(倫理面への配慮)

個人が同定されない後ろ向き調査であり、非介入、非侵襲。

C．研究結果

対象患者は、10名(女性7名、男性3名)であ

り平均年齢は41.8歳であった。平均罹患期間は 61.1 ± 41.2 ヶ月であった。痛みの強さ($M=17.8$)との関連は、PCS($M=34.8$, $r=.637$, $p=0.48$)、EQ-5D($M=.65$, $r=-.771$, $p=.009$)にみられ、その他に関連はなかった。EQ-5Dと関連は、HADS-D($r=-.640$, $p=.046$)、PCS($r=-.693$, $p=.026$)の間に負の相関、PDAS($r=.789$, $p=.007$)、PSEQ($r=.813$, $p=.004$)の間に正の相関が見られた。さらに、PCSと疼痛強度で単回帰分析を行ったところ、PCSが疼痛強度に影響を与えていた($r=.637$, $p=0.48$)ことが示された。QOLに関して、相関が見られた4つの指標で重回帰分析を行なったが、影響要因には示唆されなかった。

D．考察

片頭痛患者の疼痛強度には、心理社会的な要因のうち破局的思考が影響しているが、QOLに影響を及ぼしている心理的要因は限定できず、複合要因が関与していることがうかがえた。片頭痛患者において、破局的思考に焦点を当てた心理療法が、痛みの改善には有用であると思われる。

E．結論

片頭痛患者の痛みの増強には破局的思考が影響を及ぼしていることが示唆された。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G . 研究発表

1.論文発表

2.学会発表

- 1) 村上安壽子,井関雅子,千葉聡子,玉川隆生,篠原仁,菊池暢子,河合愛子,石井智子. 片頭痛患者の疼痛強度とQOLに関連した心理的要因の検討. 日本頭痛学会誌 2017; 44(1): コメディカルセッション 2, 2017.11.11(第 45 回日本頭痛学会総会)

H . 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし